

すぎはらしんざぞう 木造杉原神坐像

県指定有形文化財
(彫刻)

婦中町田屋 448
杉原神社所有

平安時代初めの「延喜式」という書物のなかに越中国婦負郡に杉原神社があると書かれています。

今日、同名の神社が井田川の右岸に何社かありますが、古い神像を伝えるのは、ここだけです。

1本の大きな杉から刻んだ、高さ1m近い座った姿の男神像です。杉材の一木造りは、他府県においてはあまり見られず、本県の造像法の特色であり、常楽寺安置の国指定重要文化財木造十一面観音立像の彫刻法と同一であると鑑定されています。



木造杉原神坐像



側面

正面

木造杉原神坐像写生図

天神様のように、丈の高い冠をかぶり両手で笏を持ち、頬ひげと顎ひげを豊かにつけたおごそかな面だちです。左膝がないのは、腐蝕したためと思われます。

平安時代の中頃につくられた大きな神像としてめずらしく、これこそ、「延喜式」に見える杉原神社の神様の像ではないかといわれています。



杉原神社



宮野小学校前下車(地鉄バス)徒歩20分